



JSTHE
The Japanese Society of Tourism & Hospitality Educators

News Letter 2015 No.1

日本観光ホスピタリティ教育学会学会報

通巻 第40号 発行 2015年4月23日

◇学会事務局: 杏林大学外国語学部 古本泰之、野口洋平
〒192-8508 八王子市宮下町 476 杏林大学外国語学部
Tel 042-691-0011 (代表) Fax 042-691-8617 (共用)
email: jimujsthe.org ◇学会 URL: http://jsthe.org
◇編集・発行人: 野口洋平 (yohei_noguchi@icloud.com)

【2015年度総会のご案内】第1報

2015年6月20日(土)に、東海大学代々木キャンパスにおいて2015年度総会・講演会を開催します。講演会およびシンポジウムには、会員外の方も無料でご参加いただけます。多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

詳しくは今後発送される正式な総会案内をご覧ください。また、最新情報は学会ウェブサイト(<http://jsthe.org>)に随時掲載します。

1. 開催日 2015年6月20日(土)

2. 会場 東海大学代々木キャンパス
メイン会場 4号館5階 講堂
〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷 2-28-4

3. 日程

11:00~12:30 理事会 (4号館5階 4504教室)

12:30~13:30 評議員会 (〃 4504教室)

13:30~ 受付 (4号館5階 講堂前)

14:00~14:05 開会式 (〃 講堂)

14:05~14:55 総会 (〃 講堂)

15:10~16:10 講演会 (〃 講堂)

<現在調整中>

16:25~17:55 シンポジウム (〃 講堂)

<現在調整中>

17:55~18:00 閉会式 (〃 講堂)

18:10~ 懇親会 (4号館2階 学生食堂)

※ プログラム内容・時間・教室等は変更する場合がありますので、ご了承下さい。

4. 参加費・懇親会費

<参加費>

会員・準会員・一般・学生とも無料。

総会を除くすべてのプログラムに会員外の方もご参加いただけます。(要事前申込み、懇親会のみ有料)

<懇親会費>

会員・一般: 4,000円 準会員・学生: 3,000円

※ 大会当日に受付でお支払い下さい。

5. 参加申込書・委任状の手続き

会員: 後日郵送するご案内に同封するハガキにて、総会・講演会の出欠等、必要事項をご記入の上、期限までに郵送して下さい。

会員外: 会員外で参加を希望される方については、後日上述のハガキとともに送付する案内文にて、申込方法の詳細をお知らせいたします。また、学会ウェブサイトでも随時ご案内いたします。

参加申込・委任状締切

2015年6月12日(金)(必着)

<学会事務局>

〒192-8508 東京都八王子市宮下町 476

杏林大学外国語学部内

日本観光ホスピタリティ教育学会事務局

担当: 古本泰之、野口洋平

電話: 042-691-0011 (代表)

FAX: 042-691-8617 (共用)

e-mail: jimujsthe.net

6. その他

総会・懇親会のご案内はm学会ウェブサイトからもダウンロードできるよう、準備中です。

学会ウェブサイト: <http://jsthe.org>

【理事会報告】

<2014年度 第6回理事会（定例）>

(1) 日時：2015年2月28日（土）10:30～12:30

(2) 場所：立教大学新座キャンパス8号館N841教室

(3) 出席：小畑会長、浅岡副会長、宍戸副会長、海老沢理事、鈴木泰夫理事、鈴木涼太郎理事、舘野理事、丹治理事、野口理事、吉田監事、永田幹事、安江幹事
 陪席：村上倫理委員長（倫理委員会報告のみ）

欠席：朝倉理事、高橋理事、古本理事（委任状3通）

(4) 議題

1) 第14回全国大会企画

- 総務担当丹治理事より、配布資料をもとに第14回全国大会プログラムについて説明が行われました。

2) 2015年度総会・講演会について

- 2015年度総会・講演会について、東海大学代々木キャンパスにて、6月20日（土）に開催することが承認されました。
- 講演会のテーマについて、本年度より、就職活動の開始時期が後ろ倒しとなり、その影響などについても広く情報を共有することに意義があると考え、キャリア教育と就職活動に関連したテーマを中心に検討することとなりました。具体的なテーマや基調講演者の設定については、継続審議となりました。

3) 編集委員会報告・審議

- 機関誌編集委員長の浅岡副会長から、資料に基づき、第8号の刊行が報告されました。すでに確認されている誤字については、会報・ホームページなどで訂正することで了承されました。
- 第9号の構成案が報告され、承認されました。
- GiNi 終了にともなう対応については、引き続き他学会などの情報を収集していくこととなりました。

4) 広報委員会報告・審議

- 広報委員会担当海老沢理事より報告が行われました。会員増強のために、身近な研究者を積極的に勧誘することの必要性が指摘されました。また、高校や専門学校の教員、若手の教員を重点的に増強することが必要であることも指摘されました。そのために、本学会が教育に特化した学会であることを強調し、教育実践報告をより充実させていく必要があること、大学教育における独自の教科書を作成すること等により、差別化を図ることなどの提案が行われました。

5) 総務委員会報告・審議

- 総務担当丹治理事より、ホームページの移行作業が古本理事、大谷総務委員を中心に、順調に進められていることが報告されました。
- 理事会出席に関わる旅費補助申請フォームが示され、了承されました。

6) 倫理委員会報告

- 倫理委員会村上委員長より、他学会における倫理問題についての検討状況について報告が行われました。

7) 新規事業について

- 宍戸副会長より、配布資料をもとに新規事業に関する報告が行われました。
- 本学会における研究助成制度について提案が行われ、来年度総会での承認を経て、2015年度の後半から募集を開始する方向で準備を進めることが了承されました。詳細については、今後委員会を組織し、検討する予定です。
- 新規事業として、観光ホスピタリティ教育の実践において顕著な実績を残した者を表彰する学会賞制度が提案されました。2016年度からの実施を目指して、今後検討されることとなりました。
- 学会主導での教授法研修会の実施が提案されました。各大学や私大連が行っている同様の取り組みについて情報を収集することとなりました。
- 野口理事より、会員へのサービス向上のため、学会発表時に発表を証明する書面を発行する等の提案がありました。（担当は広報委員会）

8) 研究会について

- 次回研究会について検討が行われ、本年度が関東での開催のみであったことも考慮し、次回は5月23日（土）に大阪で行うこととなりました。具体的な研究会テーマや会場は、小畑会長を中心に今後検討することとなりました。

9) 観光甲子園の後援団体について

- 小畑会長より観光甲子園の後援団体となることについて提案が行われ、承認されました。今年度の観光甲子園は、8月21日に追手門大学で開催される予定です。

10) その他

- 入退会申請はありませんでした。
- 次回理事会は5月23日（土）追手門学院大学1号館3階4A教室にて13時～15時に実施予定です。

(以上)

【機関誌編集委員会】

[締切間近] 機関誌『観光ホスピタリティ教育』第9号

<投稿原稿募集のお知らせ>

日本観光ホスピタリティ教育学会の機関誌『観光ホスピタリティ教育（英語名：Annals of Tourism & Hospitality Education）』の投稿原稿を募集いたします。観光ホスピタリティ分野の教育活動を行っている大学院、大学、短期大学、専門学校、高等学校はますます増

加しております。会員の皆様がかかわったさまざまな教育実践の取り組みや学術的な研究の成果をぜひ、本学会の機関誌でご発表ください。

会員の皆様からの投稿を編集委員会一同、心からお待ちいたしております。

- 第9号の原稿締切日：2015年4月30日（木）
- 原稿投稿先：投稿申込書1部と審査用原稿1部をPDFあるいはワードのファイルにて（PDFが望ましい）、本学会本部事務局（jimu@jsthe.org）にメールで送付。投稿申込書は本学会ホームページよりダウンロードしてください。
- なお、投稿規定、執筆要項、審査規定が2014年11月22日付けで変更となり、第9号から電子媒体での投稿となりました。ご確認くださいませようお願いいたします。

【第14回全国大会報告】

2015年2月28日（土）、3月1日（日）の日程で第14回全国大会が行われました。開催にあたっては、会場校の立教大学の教職員の皆さま、立教大学のボランティアグループ「トランジット」の皆さんに多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

大会テーマ：オリンピック・パラリンピック教育と
観光ホスピタリティ教育

1. 主催：日本観光ホスピタリティ教育学会
2. 開催日：2015年2月28日（土）、3月1日（日）
3. 会場：立教大学新座キャンパス
4. 実行委員長：立教大学・村上和夫

2月28日（土）は、理事会、開会式のあと研究・教育実践論文の発表が行われました。そのあと「2020年オリンピック・パラリンピックにむけての観光ホスピタリティ教育のあり方」のタイトルで立教大学名誉教授・本学会元会長の岡本伸之氏からの基調講演がありました。引き続き、シンポジウム「2020年オリンピック・パラリンピックにむけての観光ホスピタリティ教育のあり方」が行われ、モデレーターの大戸学氏（横浜商科大学教授・本学会副会長）、パネリストの雑賀真氏（東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 COO・総務局長）、佐藤博康氏（松本大学教授）岡本伸之氏（立教大学名誉教授）が登壇しました。さらに、学生活動報告では、「学生による海外旅行商品企画の取り組み」（玉川大学経営学部観光経営学科4年中村ゼミ・水谷輝さん、山田久留美さん）、「日本学生観光連盟 活動紹介と次世代への情報発信の取り組みについて」（立教大学観光学部交流文化学科3年、日本学生観光連盟前代表・大川周良さ

ん）が報告されました。最後に懇親会が行われました。

3月1日（日）は、ワークショップに先だってワークショップ特別講演が行われ、「観光ホスピタリティ教育に生かすおもてなしの心～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～」のタイトルで江上いずみ氏（Global Manner Springs代表/筑波大学・大学院講師）が登壇しました。続いてワークショップ分科会が行われ、テーマ別に「オリンピック・パラリンピック教育」、「キャリア教育と就職活動」、「アクティブラーニングの実践」に分かれて活発な意見交換が行われました。昼休憩を以て午後にはワークショップ報告会が行われました。最後に閉会式が行われ、大盛況のうちに全国大会を終えることができました。

【研究会のお知らせ】

テーマ：「大学における観光ホスピタリティ教育で学び、
巣立った者からの報告」

日時：2015年5月23日（土）15時～17時

報告：大島知典氏（立命館大学経営学研究科企業経営専攻博士課程後期課程2年生）

概要：①観光を専攻したきっかけと、学部での学び、②大学院進学と地域観光産業での実学、③ホスピタリティ産業人材育成研究会の設立、④観光ホスピタリティ教育に関する問題意識の提示

会場：追手門学院大学1号館3階4A・4B

参加費：500円（資料代等を含む）

交通：別紙または下記サイトをご参照ください。

アクセス

<http://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access/>
キャンパスマップ

<http://www.otemon.ac.jp/campusmap/>

※ 最寄駅よりスクールバス（無料）ご利用の際は、時刻表をご確認ください。

<http://www.otemon.ac.jp/campus/life/commute/bus/>

※ 最寄駅よりタクシーをご利用の場合、「1号館北玄関」を指定されますと、会場となる1号館にて降車いただけます。

参加申込：下記までメールまたはFAXにてお申し込みください。また、今回の研究会は、会員外も参加可能です。

本学会事務局 杏林大学外国語学部 古本泰之

メール jimu@jsthe.org

FAX 042-691-8617（共用）

2015年5月20日（水）までに、氏名、所属、連絡先（携帯電話番号）、メールアドレスを明記してお申し込みください。

【観光ホスピタリティ教育の動向】

1. 大阪国際大学に新学部・新学科開設

2015年4月、大阪国際大学では、国際コミュニケーション学部国際コミュニケーション学科を再編し、「国際教養学部」がスタートしました。

「世界の人とつながり、感動を共有できる国際人へ」をキーワードに、国際関係や地域への理解、また国際観光の知見と、国際社会を理解するために必要な政治や経済に関する基本的知識の修得をめざします。

「国際教養学部」には「国際コミュニケーション学科」と「国際観光学科」の2つの学科があり、「国際観光学科」は3つのコースに分かれています。英語、中国語などの言語を学びながら観光ビジネスに関する知識と実践能力を身につける「国際観光コース」、歴史や民俗、芸術の各分野を学びながら、国家資格である「学芸員」の取得をめざす「学芸員（博物館・美術館）コース」、そして英語、中国語などの言語を学びながら、観光業界で欠かせない「おもてなし」の心構えと知識を身につける「ホスピタリティコース」です。

「国際教養学部」では全員が海外研修に参加すること、そして企業でのインターンシップと資格取得を特徴として、理論と実践で観光学研究を推し進めていきます。

（情報提供：大阪国際大学 久保由加里）

2. 川村学園女子大学、コクヨ S&T との連携事業

2000年、千葉県我孫子市に観光文化学科を開設して以来、15年間、我孫子の地で教育を行ってまいりましたが、2015年4月入学者より、東京・目白のキャンパスにて4年間学ぶこととなりました。移転を機に目白観光文化研究所を新設し、産学連携に力をいれております。

その産学連携第一弾として昨秋より実施してきたのが、文具メーカーのコクヨ S&T との連携プロジェクトです。我孫子で学ぶ1年生から3年生までの8名が4ヶ月にわたって取り組みました。

コクヨ S&T では、ペン立てとしても使える「ネオクリッツ」や、広げるとトレイのようになる「C2」など、個性的なペンケースを展開しています。これらを、トラベルポーチや手芸用品の整理など、ペンケース以外の用途で活用する方法を提案し、コクヨ S&T と共にパンフレットを作成しました。

品川の同社オフィスにて、意見交換やプレゼンテーションなど、貴重な体験させていただきました。

観光の学びは、観光という現象を通じて、楽しさ、心地よさ、感動、喜び、不便さの解消などの生成の仕組みを知ることができます。これらは生活のあらゆる場面で



商品に関する意見交換



利用方法のプレゼンテーション

応用可能であり、「生活提案」力のつく学問領域だととらえることもできます。観光と文具メーカーという一見接点のなさそうなところに、「生活提案」という強い結びつきを見出し、このプロジェクトを推進してまいりました。

完成したパンフレットは、4月3日～5日、東京駅そばの商業施設 KITTE にて開催された「コクヨハク」で、商品やパネルと共に展示していただきました。

コクヨ S&T との連携の継続のほかにも、いくつかの企業との連携プロジェクトを推進中です。教室で学んだ理論を実践し、実社会とのつながりを感じながら、少しでも社会に役立つことができればと存じます。

（情報提供：川村学園女子大学 丹治朋子）

【編集人より】

会報では、会員の皆様から提供された観光ホスピタリティ教育の情報及び書籍紹介を掲載しております。書籍紹介は、原則として本学会会員が執筆した発行から2年以内の書籍（定期刊行物を除く）を扱います。ぜひ、情報を編集人までお寄せ下さい。

ご協力をお願い申し上げます。

編集・発行人 野口洋平（杏林大学）

E-Mail : yohei_noguchi@icloud.com

FAX : 042-691-8617（大学共用）

